

メールレター(1)

ななかまど

美しい夏がくるはずだったのに。。雨の降り止まない日々がどれほど続いていることか。

ある土曜の午後、古い石作りの建物が立ち並ぶ、忘れられたような一角を車で通っていました。骨董屋がひと昔前までは軒を並べていたのもこのあたりです。ワンブロック先の運河沿いに古い工場を改造したアパート群ができて以来、町を東西に横切る長い大通りのこの一角は、骨董屋が姿を消し、洒落たカフェやグルメのレストランが立ち並ぶようになりました。いつの間にか若者が増え、活気づいてきました。町や通りも生き物のように日々変わっていくものなのですね。この一角の、モコっとした白い花をつけた、どこまでも続く街路樹に目を惹かれてやってきたのです。この町は美しい。。と思う瞬間です。

「日本の木だそうだよ。」と夫の一言。

「ななかまどだわ。北の山で見たことがあるような気がする。秋は真っ赤になるのよね。実も赤くて綺麗だし。」

「今は、街中どこに行ってもこの木が街路に植えてあるんだよ。ここの気候に合うのかねえ。」

どうやら、7つの竈にくべても燃え残るといわれ、良い炭にもなる、このしたたかな木は、モントリオールでは大流行のようです。車で40分ほどの小さな島に住む義理の次男の家のあたりも、ななかまどで覆われていました。いつのまにかリラが見当たらなくなり、ななかまどがとって代わったようです。町中に流行り、氾濫するのは寿司だけではないようです。

「そうそう、そこのレストランね、」と夫が指さしたのは黒い窓ガラスで覆われた、一筋の光すら漏れてこない、ややミステリアスなレストランでした。

「この間オバマとジュステイン(カナダの首相のトルドーの名前)がステーキを食べにきたそうだよ。肉の味がとびきりなんだそうだ。」どうやら有名なレストランなようです。

その向かいは私たちが良く来るケーキ屋さん。ダイエット中の私には強敵。シュークリームが有名で、シューは焼いておいても、クリームはすぐにはいれず、お客様の注文があると、入れて持ってきてくれます。皮がサクツとしていて、クリームがたっぷりです。今日は、頑張っ

てパスです。

トルドーは、お父さんの影響もあり、どうやらグルメなようです。お寿司は大好物だと聞いたことがあります。銀座の寿司ジローではにぎり寿司はかなり食べ残したオバマも、ステーキは完食したとか。。

ホワイトハウスでオバマが、ウィスキーのグラスを片手に毎晩聞いていた、彼の大好きなジャズの一節が聞こえてくるようです。。

♪ I got a dream, dream to remember 。 。 。 ♪

夏はそのうち来るのかなあ。。